

いも類消費拡大 2つのイベント

「銀座」と「目黒不動」

今、じゃがいも、さつまいもが健康食品として注目を集めています。一方、生産の3～4割を占めるでん粉用は、貿易の自由化とも関連し厳しい状況下におかれており、その分、生食・加工を含む消費の拡大に対する一層の必要度が増してきました。

本会で実施するいも類加工食品等需要拡大推進事業は、昭和63年度に始まり、すでに4年を経過しました。地方事業を含む本格的な活動開始は平成元年度からで、この年「おいもわかきもおいも」を標榜し、おいも大好き作文コンクールを実施。全国の小・中学生、主婦、一般から3500点近い応募があり、大きな反響を呼びました。

2年目はヘルシーであるおいものPRを新聞・雑誌・ラジオと車内吊広告等を通じて実施。とくに「国民栄養賞をあげたい」とする荣誉賞をもじったおいもの吊広告は注目を集めました。平成3年度は、おいもに対する消費者の認識を一層高めることを狙いにビックイベントを主軸とする事業展開によって、大きな成果を収めることができました。

以下、平成3年度東京で開催した当会の主催・後援による2つのイベントについて当会発行の「おいも全書」にご尽力頂いたTAKAプロダクション高杉治男氏に取材をお願いいたしました。

(いも類振興会 需要促進部長 壺井 進)

① 日本のおいも 銀座にあり！

＝盛りあがった大キャンペーン＝

東京は銀座のど真ん中に、ときならぬ旋風が吹きまわった。この旋風、楽しさ・おいしさをいっぱいほらんだうれしいうれしい風である。題して「日本のおいも、銀座にあり！

じゃがいも・さつまいも消費拡大キャンペーン」。

11月10日の日曜日、東京は雲ひとつない秋



▲銀ブラに出かける「じゃが坊」＝(右)と「おさっちゃん」

晴れだった。天気予報の「曇、ところにより一時雨」を覆す、願ってもない日和。

栄養価の高いじゃがいも、さつまいもをもっと食べよう——をスローガンに『いも類振興会』がねりにねったビッグイベントはこうして幕開けした。

◎わっ、4メートルのいもの山

メイン会場の有楽町マリオンスペースには高さ4メートルのでっかいおいもの山が忽然と現われ、まず訪れた人の目を奪う。向って左側にさつまいも、右側にじゃがいも。崩れ落ちないかとちょっと気になるほど。

おいもの山の右側に特設のステージ。左側に大きな日本のおいも分布図。日本列島にそれぞれの産地、品種などがひと目でわかるように示されている。そのパネルの下に、じゃがいも、さつまいもを品種別に展示し、相談にも応じる。サブ会場の西銀座デパート・イベントゾーンには、おいも料理のパネル23点が目を引く。もうひとつ、ソニービルの前では「おいもチャリティ」。この3つの会場、いずれも目と鼻の先き、これが一夜にして顔を出したのだからたまらない。

◎オープン前に長い人の列

正午オープンだというのに、一時間前には早くも長い人の列。メイン会場の一番乗りは品川に住む鎌田真勝さん（43歳）一家。奥さんと子供二人で陣取る。

「新聞でイベントを知り家で… いもは好きで酒のつまみにもします」と語る鎌田さん。人の列はみるみる長くなっていく。いも類振興会はもちろん、後援の農林水産省からも上野課長補佐、横田専門官、来島係長ら関係者多数が駆けつけた。そして、そろいのジャンパーをまとして、来場者に接した。

正午きっかり、司会の水島さん（タレント）の紹介でもいも類振興会の壺井需要促進部長があいさつ。この中で、おいもと日本人のかかわりや、すぐれた栄養面を説明、「^お老いも若きもおいも」をと強調した。立て板に水を流すような司会者の進行ぶりに、会場はわきにわく。

水島—おいものすばらしさ。いろいろあるけどなんといったらその栄養面でしょね。上野〈司会・アシスタント〉—そう。とにかくおいもは畑の優等生ですからね。（ここでビタミンCやカリウムの含有量にまで及ぶ）。

水島—なるほど。ということはよく人を小馬鹿にすると、「お前はイモだ」なんて言いますが、あれは「栄養満点だ」「スグレモノだ」というホメ言葉なんですね。

◎おいもを無料でくばる

さて、このあたりで司会者が来場者に呼びかける。「ただいまから、おいもをタダでお分けいたします。ただし、ここにある募金箱にいくらでもいいから入れてくださ〜い。長崎の雲仙・普賢岳被災者に贈ります。」

司会者の「募金もお忘れなく」の声の中で

手提げビニール袋に詰められたおいもが次々に手渡される。袋の中身は、じゃがいも800グラム、さつまいも一本（約200グラム）。

ソニー前でも同時に無料配布と募金が始まる。家族数人で並んでいる組はその数だけちょうどいい、待ったカイがあったとニコリ。

ステージでは司会者にかわって、男性

三人のコントグループ「AKIKO」が登場、おいもをネタにした楽しいコントに、拍手や爆笑がわく。

◎ロザンナのじゃがいも料理やハリボテ人形の銀ブラ

続いてポテトクッキング。テレビ朝日「モーニングショー」の司会でなじみのロザンナがじゃがいもを使ったイタリアの代表的な伝統料理「ニョッキのミートソース」を披露する。4人分を材料の説明から出来上がりまで、ユーモラスたっぷりに見せてくれる。

このころ、ハリボテ人形の「じゃが坊」=じゃがいも=と「おさっちゃん」=さつまいも=が銀ブラに出かけた。これには、ねらいがある。どちらかのハリボテ人形を探し出し（といってもひと目でみつかるとは）あらかじめ配られたオリエントシートにスタンプをもらうと、あとで行われる抽選で、豪華な賞品が当たるというわけだ。



◀ロザンナのイタリア料理実演



◀「おさっちゃん」に握手を求める女の子

ステージを離れて、雑踏の中を歩く「じゃが坊」「おさっちゃん」を探す来場者、なんにも知らなくていきなりハリボテ人形に出会う人。「子供と一緒に記念写真を……」と迫るお父さんも。二ツの人形は歩けないほどモテモテ。

◎「勉強になった」おいもクイズ

ステージへまた戻ろう。ちょうど「おいもクイズ」が始まった。

全部で30問、かんたんなものもあるが、ちょっとむずかしいものもある。さっと手をあげ、「はい正解」で賞品をいただく人、「残念でした」で頭をかくもの、会場には、こもごもの表情が流れる。

問題を少しここで再録してみよう。

「おいもの種類で「ベニコマチ」というのがありますが、これはじゃがいもである」

（さつまいもで、×が正解）

「ポテトチップスが生まれた国はアメリカ」

（○が正解。19世紀中ごろのことで、日本では昭和23年から製造が始まった）

「じゃがいもを料理するときは、皮を厚くむいて食べたほうがいい」

（×である。おいしく食べるには皮つきで調理する）

3ツの中から選ぶ問題もある。

「次にあげる国のうち、国民一人一年当たりのじゃがいも消費量が多い国はどこか？」

①アメリカ ②アイルランド ③スペイン

（正解は②のアイルランド。年間126.3キログラム。日本はおよそその十分の一）

わかっているようで、案外知らない問題が多かったようだ。

「賞品はとれなかったが、とても勉強になった」とは50歳ぐらいの主婦の弁。

ステージイベントは、午前が続いて、午後も行われた。そして大抽選会に入る前に、スペシャルゲストが現われた。

司会者が声を一段と高くして、

「みなさ〜ん！ 松田聖子さんと萩原健一さんです！」

会場では、「えっ」といった声が飛ぶ。司会者すかさず、

「……の、そっくりさん!!」

◎49歳の女性が“金的”、寄付金は雲仙被災者へ

いよいよ、しめくくりの大抽選会が始められた。

多くの人から回収したシートがステージの上に集められた。司会者があらためて賞品の紹介をする。

◇1等＝JTB旅行券10万円相当（1名）

◇2等＝電子レンジ（3名）

◇3等＝圧力鍋（5名）

◇4等＝じゃがいも5キログラム（20名）

まず4等から次々に発表される。3等、2等、そして1等。その瞬間、会場はどよめく。

こうして1等の金的を射止めたのは、49歳の横浜金沢区釜利谷町、野中直子さん。

ここで、雲仙・普賢岳被災者に贈られる寄付金が集計され、後日現地へ届けられることになった。

午後5時、イベントすんで日が暮れて……。まるまる5時間、銀座一帯を巻きこんだ大キャンペーンも幕をおろした。配られたおいもは約5トン。

会場を去る人たちに司会者が呼びかけた。「これからも、もっともっとおいもを食べて、充実した食生活、健康な体作りに役立ててくださいーい。」

② 昆陽先生をしのぶ「甘藷まつり」

＝遺徳永遠に、目黒不動に10万人＝

香煙とともにこうばしいおいもの香、目黒不動尊境内いっぱいにただよう。10月28日、今年も一年にいっぺんの「甘藷まつり」がやってきた。

◎ズラリ200軒の露店商

東急始発目黒駅のつぎの駅「ふどうまえ」で降りる。小さな駅だがこの日の乗降客は、ぐんとふくらむ。

道がわからなくてもいい。そろそろ歩く人たちのあとをついていく。すぐに目につく赤地に白抜き「甘藷まつり」ののぼり。道路の両側に約10メートル間隔で立っている。

門前通り近くになると、露店商がズラリと並ぶ。地元商店街も軒先きに商品を出して、たくましい商魂をみせる。

境内に入るとすごい。参道に沿って、少しのすき間も惜しいほどに露店商が並ぶ。甘藷まつりののぼりのほかに、墨蹟鮮やかな横断幕が天高く掲げられている。

広い境内に設けられた出店は約200軒。参詣をすませた人たちにとって、この露店を見て歩くのがまた楽しみのひとつ。



▶にぎわう目黒不動の境内

▶本殿前に掲げられた「大法要」の案内



◎いも類振興会も特設会場

なかでも境内の中心部に例年設けられる、おいも展示と、廉価販売が大きな魅力。いも類振興会がいもの普及を願って開く特設会場である。農林水産省から横田専門官、いも類

振興会から壺井需要促進部長ほか4人が対応に当たる。

天幕の中に掲げられたさつまいも料理のパネル、皿に盛られた10を超す品種のいもについて、熱心に見入る人、質問をする人、会場は次第に熱気を帯びる。

「へえー、さつまいももこんなに多くの品種がある

のか」とただびっくりする人。

「この品種はどこでとれるの？ どのくらい？ 味は？ 病虫害は？」 かなりの予備知識をもとに、突っ込んだ質問をする勉強家もいる。それらに、ていねいに説明する係の人たちは次第に声もかれてくる。

一方、安いおいもがねらいだけのちゃっかり組もいる。なんといっても安い安いお値段だ。みるみるうちに売れていく。用意した一トンがあっという間に消える。この売上げはそっくり甘藷まつり実行委へ奉納された。

◎「おいもと栄養」を無料配布

ことは販売のほかにもうひとつ、“おまけ”があった。いも類振興会発行の「甘しょ・ばいれしょ おいもと栄養」の本が無料で配られたのだ。

B5判で72頁。著者は日本栄養学の権威・香川綾先生（前女子栄養大学学長、現香川栄養学園園長）である。栄養学への貢献を高く評価され、平成3年度の文化功労者に選ばれ



◀いも類振興会・特設会場のおいも販売

たことはご存知のとおり。

この香川先生が、おいもがいかに栄養的にすぐれているかを、わかりやすく、読みやすく説いている。そして、気軽にできるおいも料理約70を盛った内容である。表紙も4色で目のさめるような鮮やかさ。

「これはタダです。どうぞお持ち帰りください」と係員が言っても、半信半疑で手を出さない。

「ホントですか」

「あっこれはいい。料理特集までついている。早速これを見ながら作ってみよう」

「ゼニをださないで、もらえるなんて……お参りしてきた御利益がもうあらわれた」

深々と頭を下げるおばちゃまもいた。

◎産地のコーナーも

特設会場の一角には、おいもの産地の特売・説明コーナーがある。遠くは鹿児島、宮崎、それに千葉、茨城など。それぞれ特派された係の人たちが、これまた、声をからして“お客”に接している。

また境内のあちこちには、便乗のおいも屋さんもいる。焼きたて、ふかしたてのおいものにおいをあたりにふりまきながら、

「さあさあ、おいしいよ。いいにおいだよ。」

日本一の味だよ」

午後1時半、いよいよ甘藷先生遺徳の大法要。本堂で法要がすすむころ、境内はクライマックスに達する。

境内を出た裏手の小高いところに甘藷先生の墓がある。矢印にしたがって4～5分、樹々に囲まれた中に、母と長女の墓と並んで建っている。

墓前には、さつまいもと生花が供えられ、参拝者があとを絶たない。

◎昆陽自筆の「甘藷先生墓」

境内には甘藷問屋組合が建立した「昆陽先生の碑」と芝・麻布のやきいも屋さんたちが建てた「甘藷講碑」もある。

暗くなってもお参りの人は続く。朝7時ごろから始まったこの列は夜10時ごろになってやっとおさまった。人出の数は約10万人という。

おいも先生の遺徳は、墓石の文字のように、永遠にあせることはない。

いも類振興情報 第31号

平成4年4月15日発行

発行所	財団法人 いも類振興会 東京都港区赤坂6-10-41 ウィップ赤坂303号室 電話 03-3588-1040 振替・東京3-110152
印刷所	交通印刷株式会社
